平成 27 年度　事業報告

■NPO 法人マリンネットワーク　平成 27 年度　総会・講演会・交流会

1．総会

日時　平成 27 年 5 月 15 日　14：00～14：30　　開催場所　ＴＫＰガーデンシティ札幌駅前

正会員数総数　122 名（個人 95，法人 27）のうち，出席者 72 名（うち委任状出席者 46）で，正会員数の 1/2 以上の出席をいただいたので，総会が成立しました.

古屋理事長が議長に選出され，４つの議案について審議をしたところ，原案通り異議なく可決されました.

総合司会　折谷久美子氏（ＮＰＯ法人マリンネットワーク理事，ＮＰＯ法人スプリングボード・ユニティ 21 理事長）

２．講演会

日時　平成 27 年 5 月 15 日　15：00～17：15

開催場所　ＴＫＰガーデンシティ札幌駅前

■講演

○濱口英代　氏　「和田島の女性パワーで　浜(漁業地域)に!!」

濱口さんは和田島漁業協同組合参事として漁協女性部の活動を支えています．女性部が取り組んでいる，「和田島ちりめん」のブランド化をはじめとする地域での活動，漁業・農業の連携により担い手育成や六次産業化等を推進する「こまつしま漁と農ゆめ会議」の紹介，「水産多面的機能発揮対策事業」を活用した魚食文化の伝承と古民家再生の取組の紹介をいただきました.

○高橋泰子　氏　「女性部の力で守ってきた「のれん」－そのときを精一杯生きようー」

斜里町ウトロ地域の概要を説明いただいた後，昭和 44 年からスタートした婦人部食堂について紹介をいただきました．地元の食材の利用し，手をかけて作った食事を提供し，お客との一期一会を大切にしながら営業を続け，年間 2400 万円も売り上げるようになりました.

更に，利益を女性部の活動資金として活用することにより，地元での食育活動，ＪＡとの異業種交流などを行っています．平成 28 年に完成する人工地盤へ食堂を移転して，6 次産業化や観光客との交流活動にも力を入れていきたいというビジョンを持っています.

○山口加津子氏　「ホッキへの熱い思いが支える苫小牧漁協女性部の夢」

苫小牧はホッキ貝の水揚げ日本一です．そのホッキ貝を日本全国へ広く普及するために漁協の女性部長として，熱くパワフルな活動を続けています.

地域における食育活動や料理教室の実施などは，異業種の方たちと積極的に交流して活動を継続しています．山口さんの夢は，女性部の食堂を開くこと.

【講師略歴】

濱口英代氏（和田島漁業協同組合参事）

昭和 53 年から和田島漁業協同組合信用部に勤務、平成 19 年に参事に就任。平成 3 年から女性部の事務局担当となり、「こまつしま漁と農ゆめ会議」「和田島女性元気会」メンバーとして活動するとともに、国の補助事業の採択を受け、女性部の活動を運営面からサポートしている。

高橋泰子氏（ＪＦウトロ漁業協同組合女性部連絡協議会　顧問）

昭和 43 年にウトロ漁業協同組合に勤務、昭和 61 年から婦人部に加入し、昭和 62 年に婦人部若妻会を立ち上げる。平成 16 年から平成 27 年 1 月まで女性部長を務める。ウトロ漁協の女性部食堂（昭和 40 年に「婦人部売店」として開店したのがはじまり）の経営には力が入り、平成 27 年から女性部食堂の責任者に就任。

山口加津子氏（苫小牧漁業協同組合女性部長）

苫小牧生まれ。漁師の父親を手伝い、子供のときから漁業や魚の販売などに携わる。サラリーマンの夫が漁師になって以降、漁協女性部の部員としてホッキ貝をはじめ苫小牧の水産物普及のため活動を続け、平成 22 年から女性部長、平成 25 年から胆振地区女性連の会長を務める。夢は女性部で港に食堂を開くこと。

■トークセッション　16：00～17：00

「漁業地域における女性の活躍とその推進について」

スピーカー　濱口英代氏，高橋泰子氏，山口加津子氏

コーディネーター　遠藤 仁彦氏（NPO 法人マリンネットワーク理事、 国土交通省港湾局技術企画課技術監理室長）

■NPO 法人マリンネットワークの活動報告　17：00～17：15

古屋理事長が、平成 26 年度の活動報告をしました。

3．<u>交流会</u>：17：30～19：00

会員、一般の方々あわせ、約 25 名の出席を頂きました。

■漁村地域とそれ以外との交流促進事業

(1)Sea 級グルメ全国大会(岩手県宮古市)視察

2015 年 9 月 19～20 日に岩手県宮古市で開催された sea 級グルメ全国大会に遠藤理事が視察に訪れました。マリンネットワークの活動において、地域でお手伝いさせていただいている苫小牧、室蘭、紋別各港のみなとオアシスが出店していました。

苫小牧は漁協女性部もお手伝いしていて【ほっきカレー】を、室蘭では【ヤヤン昆布うどん】、紋別では【ホタテみそ焼きうどん】。それぞれの地域の特産水産物を使ったメニューです。どれも大好評、東北宮古の地で、大いに北海道の魅力を PR していました。

(2) 南かやべ前浜産養殖真コンブ　小分けオーナーの実施

<u>「南かやべ前浜産養殖真コンブ」とそのオーナー制について</u>

平成 25～26 年度に引き続き，NPO 法人マリンネットワークにおける地域の魅力的な水産物を多くの方に知って頂く活動の一環として、当 NPO 法人が養殖コンブオーナーとなり、一般家庭が購入しやすいように小分けして販売することとしました。これによって、もっと気軽にオーナー制のコンブを試していただき、南かやべ地区の養殖コンブの魅力をより幅広い方々に知って頂ければと考えています。

- 早煮コンブ１３袋（１５０g／袋）
- ダシコンブ３０袋（２００g／袋）

限定で、１袋各１，０００円（消費税および送料込）で販売。早煮コンブは５月中旬、ダシコンブは１０月下旬にお送りしました。平成 27 年度も継続していけるような取組にしていきたいと思います。

(3) 根室の歯舞（はぼまい）地域のコンブ、落石（おちいし）地域のコンブの販売

南かやべの「白口浜真コンブ」とは違う「ながコンブ」という種類のだし用と早煮コンブです。
歯舞早煮コンブ（８０ｇ／袋）６００円，歯舞だしコンブ（８０ｇ／袋）　５００円，歯舞細切りコンブ（１００ｇ／袋）　６００円，霧娘（きりっこ）コンブ（２００ｇ／袋）　１，０００円（いずれも消費税および送料込）

■持続可能な漁村地域づくりに関する事業

(1) 第8回マリンナレッジサークル（漁村勉強会）のご報告

開催日時：平成27年8月28日(金)　16:00～18:00
会場：一般社団法人寒地港湾技術研究センター　会議室
（札幌市北区北11条西2丁目2番17号　セントラル札幌北ビル5階）

○講演（16:00～17:00）片石圭介氏（復興庁交付金班）
演題「東日本大震災のこれまでとこれから」　～岩手県大船渡市での被災と震災復興の経験から～
【講演概要】
・大船渡市での経験（応急対応）
水産庁から大船渡市へ出向中に東日本大震災で被災した経験から、ライフラインの確保、応急対応のあり方、緊急避難場所としての漁船の活用などについて報告された。

・大船渡市での経験（復旧・復興）
大船渡市における1年間の復旧・復興に携わった経験から、地域特性に合わせた復旧・復興の方針の考え方、要望要求のとりまとめでの工夫などについて報告された。
・復興庁（現在の出向先）における仕事

○意見交換（17:00～17:20）

○積丹アクションのアイデア説明と意見交換（17:20～18:00）
NPO法人マリンネットワークでは、水産資源状態が極めて厳しい北海道日本海沿岸において、サステナブルな漁村地域のためのアイデアを検討するため、積丹地域をモデルとした「積丹アクション」のアイデア（素案）を作り、参加者と意見交換しました。
地元が取り組めるアイデア（案）を示し、主な意見は以下の通りです。

【主な意見】
・大型のホッケが少なくなっている。過大にとりすぎではないか。その結果、小さいホッケが出回っているので、ますます資源が少なくなると思われる。
・未利用魚はすり身など食べやすい加工品を作る
・地元に団体客が来ると、同じサイズのものを提供しなければならず、難しくなっている。
・ウニ丼が人気だが、ウニの量と価格設定が不明確。剥く量がクリティカルパス。
・ナマコは漁港水面を活用して取り組みやすい。他、岩のりなど
・NPOは行政ができないことをやっていく。頑張っている人を応援したい
・技術開発された磯やけ対策があまり使われていないと思う
・コンブを増やすとウニも増える
・資源の持続性のためには海に栄養を与える必要がある
・飲食店など、複数の魚から選べるスタイルがいいのではないか
・岩のりは寒い時期しか採れない。水試と協力して岩につきやすい岩のりを作っている

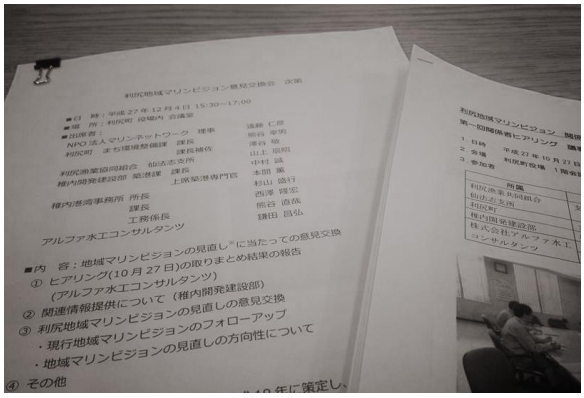
⑵利尻島仙法志地区の地域水産業ビジョンの見直しのための意見交換

マリンビジョンの見直しの委員会に、マリンネットワークからアドバイザーとして遠藤理事が参加しました。仙法志漁港は４種漁港として地域の拠点です。ホッケなどの漁船漁業、利尻昆布や利尻昆布を餌に育ったウニの産地でもあります。単価が高いナマコ漁業などを行っています。

冬期風浪が厳しい日本海側に位置し、秋、冬と出漁できない日が続くため、水揚げの拠点として整備されてきた漁港のストックを賢く利用して、港内でナマコ漁を行っています。

ナマコは港内全体ではなく、防波堤の近くのちょっと深いところにいるようです。利尻島は漁業が基幹産業ですので、漁業が持続的に営まれることが大事。年間通して安定して収入がある漁業、つくり育てる漁業を地域の知恵で実現していくことが大事です。

マリンネットワークは、外から見た知恵をアドバイスするなど、サポートしていきます。



■漁村地域の担い手支援に係る事業

(1)第９回マリンナレッジサークル「積丹の漁業と日本海漁業振興を考える学習会」

ＮＰＯ法人マリンネットワークでは、積丹地域の漁業振興について勉強会を実施してまいりました。一昨年８月に開催した第６回マリンナレッジサークルでは、積丹町、古平町、神恵内村の方を札幌にお招きして、積丹地域の現状についてご紹介いただきました。昨年８月に開催した第８回マリンナレッジサークルでは積丹地域の漁業振興について参加者とともに意見交換を行いました。そして平成 28 年 2 月 13 日に積丹町へ伺い、地元の学習会を開催しました。約 60 名の関係者にご参加をいただきました。（なお、積丹町では冬季営業している宿泊施設が少なく、宿の確保が難しかったため、広く会員の皆様に本件のご案内ができませんでした。お詫び申し上げます）

開催日時：平成 28 年 2 月 13 日(土)　15：00～17：30
共催：積丹地域マリンビジョン協議会・ＮＰＯ法人マリンネットワーク
会場：積丹町総合文化センター

■プログラム：
- 主催者挨拶　積丹町長　松井秀紀氏
- 来賓挨拶　　衆議院議員　中村裕之氏
- 話題提供
  - ①「水協法・漁業法について」
    後志総合振興局水産課長　加藤健司氏
  - ②「足元の資源を見直し、できることから始めよう」
    積丹町環境生態系保全アドバイザー　河村博氏
  - ③「歯舞地区マリンビジョン協議会の取り組みについて」
    歯舞漁業協同組合総務部長　斎藤義嗣氏

主催者挨拶　松井町長

- 意見交換　「積丹の漁業について考える」

来賓挨拶　中村裕之衆議院議員

○話題提供

①「水協法・漁業法について」後志総合振興局水産課長　加藤健司氏
漁業権（定置、区画、共同）は一定の漁業を営む権利であり、漁協に対して与えられた免許として漁業法に規定されている。漁協は漁業権行使規則を定め、組合員は漁業の許可を与えられている。水協法は漁協の種類や事業の内容、運営機関、組合員の権利、組合員の義務を定めているものだと説明がありました。

②「足元の資源を見直し、できることから始めよう」積丹町環境生態系保全アドバイザー　河村博氏
これまでの調査研究から得られた様々な知見から、積丹にある資源を活用し、漁業が持続するためのアイデアをたくさんお話しいただきました。1）積丹の特徴として、川から沿岸に供給される

栄養が非常に豊富なこと、それが海藻の生育に大きく関係していることを漁業者との共同調査で明らかになったこと。2）積丹町のサケ増殖は放流方法を工夫することにより資源が増加する可能性があり、サケプロジェクトを立ち上げて取り組み始めたこと。3）サクラマスは森、川をつなぎ、生態系をつなぐことによって増やすことができる。4）漁業者自ら行動すること、情報や知識を得てそれをアイデアに結び付けてほしいというお話でした。

④ 歯舞地区マリンビジョン協議会の取り組みについて」歯舞漁業協同組合総務部長　斎藤義嗣氏

歯舞地区マリンビジョンでの取り組み～キャッチフレーズは最東端からのメッセージ～　の紹介を通して、次の6つのポイントに留意しながら活動を進めたと紹介されました。

1）自然消滅的な流れに至らないよう強く意識する　2）地域ぐるみの協調性が必要　3）若い人のモチベーションを保たせる　4) 長期的視点を持ち、すぐに利益を求めない　5) 地域の主要メンバーに参画してもらい、漁協が核となり率先垂範する　6）北海道開発局・北海道・市町村・大学など、産学官連携のもとアドバイスをいただきながら進める

講師　加藤健司氏

講師　河村博氏

講師　斎藤義嗣氏

○意見交換

NPO法人マリンネットワーク　遠藤理事のコーディネーターにより、地元の漁師さんを中心に積丹町の漁業についての意見をお聞きしました。主な意見は以下の通りです。

意見交換コーディネーター
遠藤理事

・父の後を継ぎ漁師になって2年目、磯まわり（ウニ、アワビ、ナマコなど）の漁業をしている。資源が少なくなっているが、どう取り組んでいいかわからないことが多い（青年部員(美国支所)）

・漁師になって2年目、磯まわり（ウニ、アワビ、ナマコなど）の漁業をしている。ウニ剥きの出面さんが不足して困っている（青年部員(美国支所)）

・漁師になって3～4年、天気に左右されている。ウニの実入りがしないので、円筒の籠を使った養殖に取り組むことになっている（青年部員(美国支所)）

・底建漁業と浅海漁業を主にやっている。磯焼けが問題（青年部員(余別支所)）

・ウニについては水揚げが7トン、7千万円減少した。餌をやりながら育てる部会を立ち上げ取り組み始めた。サケの海中飼育もおこなっている(東しゃこたん漁協)

上記の意見を受けて、行政や研究機関の方から

・自然エネルギーを利用した陸上飼育施設を整備することにより出荷期間を長くできないか検討するための調査を実施している（北海道開発局小樽開発建設部）

・新しいアイデアを出して取り組んでいく人が必要だ。沿岸を少し休ませて沖に漁業を展開しながら沿岸の資源回復を図ることが可能（北海道）

・地場の資源の見直し、有効活用（ウニにコンブを与えて実入りをよくする）には継続と根気が必要だが、ぜひ続けてほしい。若い人たちが今後の方向性を考えていく。イワガキ、バカガイ、アサリの技術開発を行っている（道総研）

今回の学習会を通して、積丹の漁業は現状抱える問題も多いのですが、一方で、若い漁業者が後継者として意欲的に漁業をしていたのが印象に残りました。日本海漁業の今後についてできる限り応援したいと考えている人（企業、研究者、行政など様々）がたくさんいるので、いろんな可能性を将来につなげるような地道な活動が必要なのかと思いました。講師の方、集まってくださった地元や関係機関の方、準備にご協力くださった積丹町の皆様、ありがとうございました。学習会のあと開催した交流会も、参加者も多く大変盛り上がりました。

■情報収集及び調査研究

(1) 和田島漁業協同組合女性部との交流

2015 年 5 月の総会に講師で来ていただいた和田島漁協の濱口参事とのご縁で、和田島漁協女性部(鳴滝貴美子部長)主催による和田島ちりめん市の視察を中心に、地域との交流を目的に 2015 年 10 月 30 日～11 月 3 日に徳島県小松島市を訪問しました。ほかに、徳島小松島港の視察、小松島みなとオアシスの視察を行いました。

和田島ちりめん市における女性部のテント
(ちりめんの直販をしていました)

小松島港視察

←国土交通省四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所で小松島港の説明をしていただきました

みなとオアシス小松島「小松島みなと交流センターkocolo」(旧南海フェリーターミナルビル) を中心に、カフェやフリーマーケット、産直市などが常設されている。ボードウオークもイベント時には市民でにぎわっているとのことでした。

(2)マリンビジョン期成会報告書　契約金額：180,000 円(税込)

■その他